

力がつく不思議な法則

2020年4月24日 21時

山口です。ここ数日は事務的な連絡が続き、ようやく久しぶりに熱い!?メッセージを書くことができます。少し長いですが、がんばって読んでください。

昨日、ある保護者からパソコンに関するお問い合わせをいただきました。お電話の最後に、「ご家庭での様子はどうですか?」とお尋ねしたところ、次のような様子を教えてくださいました。

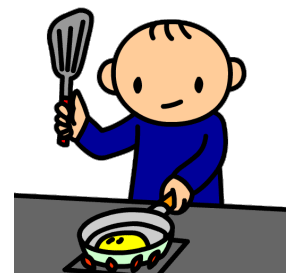
「朝はちゃんと起きて、テレビ体操をし、勉強もしています。そして家事も手伝ってくれて、食事の用意は全部やってくれています。助かっています。先生のメッセージを読んでしっかりやってくれています。先生、すごいですね。」

テレビもコロナの話題ばかりで、皆さん、最近ちょっと気持ちが疲れていませんか? こういう先生も、様々な調整ごとや遠隔授業の準備などで心身ともに疲れ気味でした。でも、このお電話をいただいて、一気に元気を取り戻しました。大きなエネルギーをいただきました。私の元気の素は、学生である皆さんの頑張りです。すごいのは、その学生が、メッセージや指示をしっかり理解して、自主的に **act locally** を実践してくれていることです。

そこで、学力や生きる力がつく不思議な法則について、お話しさせていただきます。

私は、津山高専に勤める前は、33年半の長きにわたって中学校の教員をしていました。いわゆる「指導困難校」から「進学校」までいろいろな経験をし、多くの生徒たちと出会ってきました。その中で、急速に学力がつき、しっかりとしてきた生徒にはある共通した法則があることに気がつきました。

中3の担任をしていた時、Aさんは、自分の志望校をかなり高めに設定していましたが、1学期の段階では、全く合格圏内には入っていませんでしたし、志望校の変更も考えるようにアドバイスをしていました。ところが2学期になって急に成績が伸び始めました。2学期の懇談会でお母さんから伺った話では、自主的に家族全員のお弁当作りを始めたというのです。そして下の子の面倒もよく見るようになったと言います。その頃からしっかりし始めて、勉強のリズムもできて、成績も伸びてきたとのこと。クラスには他にも同じように家族全員のお弁当作りをしている生徒がいましたが、同じく成績が伸びてきました。そして二人とも見事に志望校に合格しました。



また中3で副担任をしていた時のことです。Bさんは、整理整頓が大の苦手な人で、1学期の始めは、教室の自分の机の周りに紙くずやノートやらが散乱している生徒でした。学力的には高校に行けるかどうか怪しい成績でした。担任の若い先生と私は、昼食後の昼休みに、二人で黙って教室の掃き掃除をすることにしました。生徒達には、あえて手伝うようには言いませんでしたし、Bさんにも片付けをするようには言いませんでした。午後からの授業は、きれいな教室で気持ちよく授業を受けてもらえることができるようになりました。さらにBさんは私のトイレ掃除の班になりました。その時も私は、掃除の手順についての指示はしませんでした。ただ、掃除が終わった後に、みんなで反省会を2分間程度し

ました。皆、自分の掃除の出来具合を5段階で自己評価して、その理由を述べるだけです。



2学期になって、Bさんの机の周りにゴミが落ちなくなりました。そしてBさんは、ついに、なんと雑巾片手に四つ這いになってトイレの床を磨き始めるようになりました。さらに3学期になったら、Bさんは下級生のトイレ掃除に赴き、掃除の仕方を教えてくれるまでになりました。そして、連動するようにみるみる成績が伸び、見事に高校に合格しました。他にも似たような例がたくさんあります。ここで共通していることを考えてみました。

- 1) 言われてやるのではなく、あくまで自分で決めて自分でやる。(自主性)
- 2) 人の役に立つことをすると、その成果が形を変えて自分に返ってくる。(貢献)
- 3) 目の前の小さなことに集中し、それを継続して行う。(act locally)
- 4) それらを見守ってくれる人がいる。(家族や先生、友達など第三者の存在)

以前のメッセージで、研究にはエビデンス(証拠)が必要と言いました。私の研究分野では、ふつう統計学を用いて、教育効果を検定し数値化します。でも、これについては数値化などしていませんが、経験に基づく、なにやら信念に近い確信があります。

もう一度、私の最初のメッセージ「Stay Home and Study Hard!」を読み返してみてください。<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/kojin/1nenhomepage/Stay%20Home%20and%20Study%20Hard20200407.pdf>

「10 家の仕事を分担し、家族の一員として働く」はやっていますか？

家族に言われてやると効果が半減です。自分でできることを自分で探して、自分で決めて、自分で続けることです。そうしたら、家族の役に立っているという実感が湧いてきて、元気が出てきます。人のために何か役だつことをすると、それは宇宙をぐるっと回って、形を変えて自分に返ってくるのかもしれませんが、心は漠然としていて形がないので、自分自身でも掴みにくいものです。「やる気」なんてどこから湧いてくるのかわかりません。だから目の前の具体的なものをきれいにしたり、整理整頓したり、人の役に立つ実際の行動に移して、見える形にして実感することが大切です。

これが私の仮説「力がつく不思議な法則」です。

おそらく仕事も同じだろうと思います。私自身、元気が出たのは、ホームページの自分のメッセージが役立ったという実感であり、今、コロナウイルスと最前線で戦ってくれている医療関係者の方々は、大変な苦勞をされていますが、その根底には、人のために、社会のために役立つ仕事であるという誇りや責任感であろうと思います。

皆さんにとっては、皆さんの今の立ち位置で、人のために何ができるのかを考え、その小さな実践を継続してみることでないでしょうか。

ぜひ、皆さんの小さな実践をお知らせください。本人から「こんなことを頑張っている」「こんなことをやってみた」、または保護者の方から「こんなことを頑張ってくれている」「こんなことをやり始めた」など、些細なことで構いませんので、お知らせください。

宛先は、山口+各クラスの担任と副担任を含めてメールでお送りください。もちろん電話でもOKです。